資料１

みたけ創生！若手職員政策検討プロジェクトチーム
政策提案発表会

目　的

以下の２点を目的として、プロジェクトチームを設置し検討を行ってきました。

①総合戦略を策定するにあたり、子育て支援や若者移住、観光施策などの施策を部局横断で研究し、町の施策展開に活かして必要があること。

②若手職員が政策研究活動を行うことで個々の政策形成能力の育成を図り、組織の活性化を促進させること。

日程・会場

日　時：平成２７年９月２９日（火）庁議終了次第　※11：00 頃

会　場：本庁舎２階　第１委員会室

発表の内容

▽発表のテーマ

御嵩町まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）に係る施策に関する提案

「子育て世代に選ばれる御嵩町の実現に向けて」

▽発表方法について

・プレゼンテーション時間：発表７分+質疑応答 13 分/１グループ

１つのグループにつき、約２０分の持ち時間で、発表と質疑応答を行った。

・統一事項　以下のポイントを押さえることとした

①御嵩町の強み、地域資源

②現状・課題

③目指す姿・ありたい姿

④政策内容（事業の概要、目的、経費、事業実施体制、期間、地域との関係など）

⑤成果目標・KPI（具体的な数値目標。その際、現状の数値も必ず掲載）

資料１

グループ構成とテーマ

▽グループの構成と提案事業名称は以下のとおりです。

グループ	提案事業名称	メンバー
A	みたけもりもりほいくえんプロジェクト 自然環境を活かした保育の取組み	伊佐治　諒（学校教育課） 岩津　昌之（税務課） 小栗　宏紀（建設課） 安藤　裕之（住民環境課） 渡邉　亜美（福祉課） 小倉　辰信（福祉課）※サポーター
B	魁！子ども塾 地域・民間・学生と協働した公営塾	神矢　麻衣（税務課） 小川　雄大（建設課） 篭橋　達哉（生涯学習課） 宮内　一成（上下水道課） 佐橋　良太（まちづくり課） 大脇　敬之（税務課）※サポーター
C	みたけ育 MEN 育成プロジェクト 地域と連携した育児参加する男子を増やす取組み	今井　健太（上下水道課） 伊佐治　文野（福祉課） 掛布　登志恵（生涯学習課） 土屋　由真（福祉課） 板屋　達彦（亜炭鉱廃坑対策室）

.

資料１

様子

『みたけもりもりほいくえん』 プロジェクト

概要　みたけの資源（森林）を有効活用し、自然体験活動をより充実させることで、保育運営の独自性が生まれ、子育て世帯に選ばれるまちとなることを目指す。

みたけの資源

町の約60%は森林
豊かな四季折々の自然
環境モデル都市みたけ

現状と課題

【子ども】 人数減少・体力低下
【教　育】 自然と関わる機会を充実させたい

みたけもりもりほいくえん

ターゲット

子どもに自然教育を受けさせたい子育て世帯

目指す姿・ありたい姿

独創性・体力・生きる力・自己解決能力の向上

子育て世帯の転入増加・転出防止

幼児期からの環境教育による次世代の育成

H27　H28　H29　H30　H31

- 調査・研究
- 方向性の決定
- 保育士の教育
- モデル事業実施
- ワークショップ実施

H31～

- みたけもりもりほいくえん建設開始

プロジェクトの成果・KPI

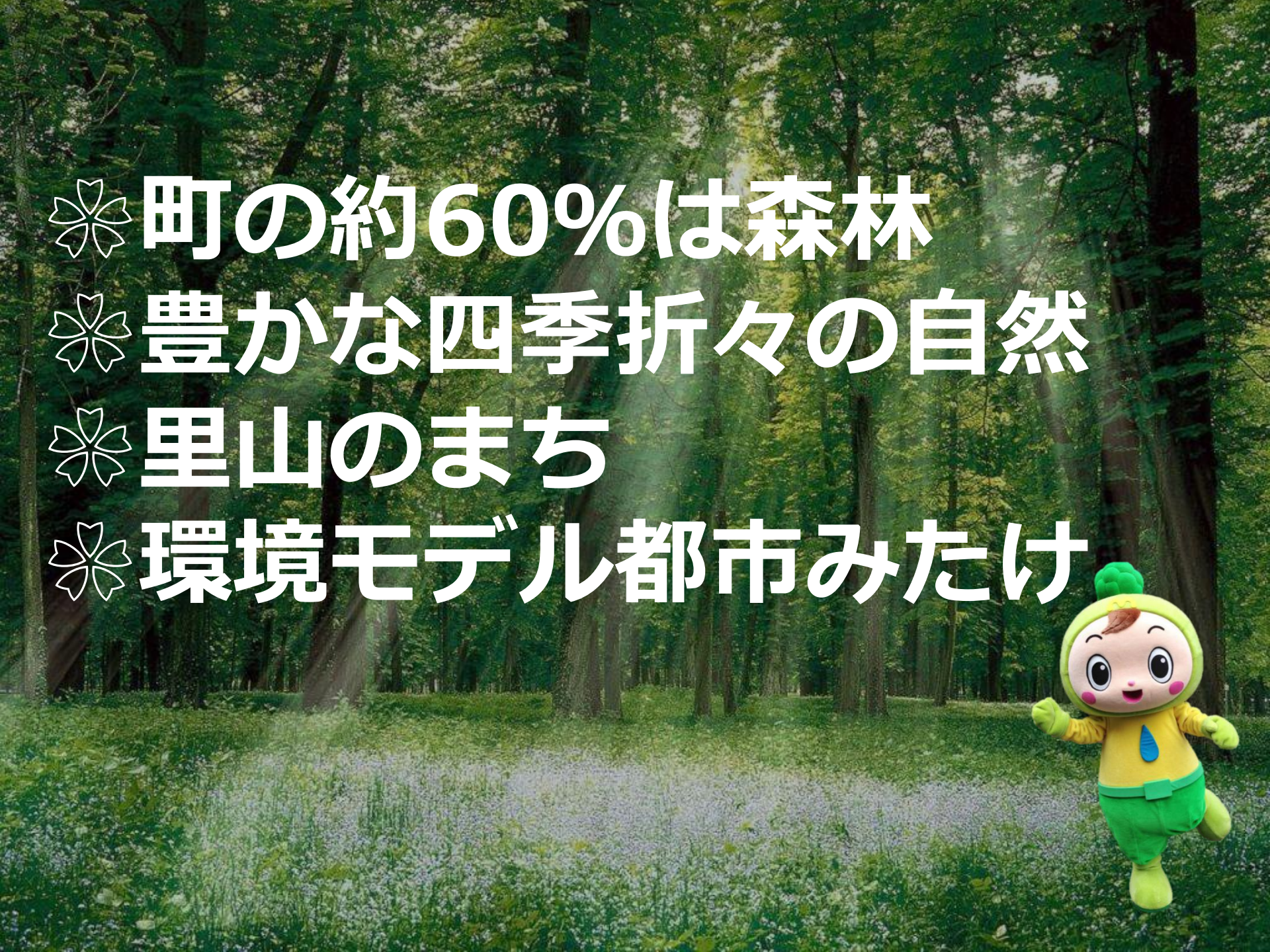
・子どもと親の満足度	80%が満足
・ワークショップ参加者数	20組（H28）→50組（H31）
・転入世帯の増加	10世帯以上の増加

- 参画する地域住民が増える
- みたけもりもりほいくえんの認知が広がる
- 子育て世帯の転入が増える
- 卒園生が子育て世帯として戻ってくる
- 環境に興味を持った子どもたちが輩出される

みたけもりもり
ほいくえん
プロジェクト

小倉 辰信・小栗 宏紀・渡邉 亜美
伊佐治 諒・安藤 裕之・岩津 昌之

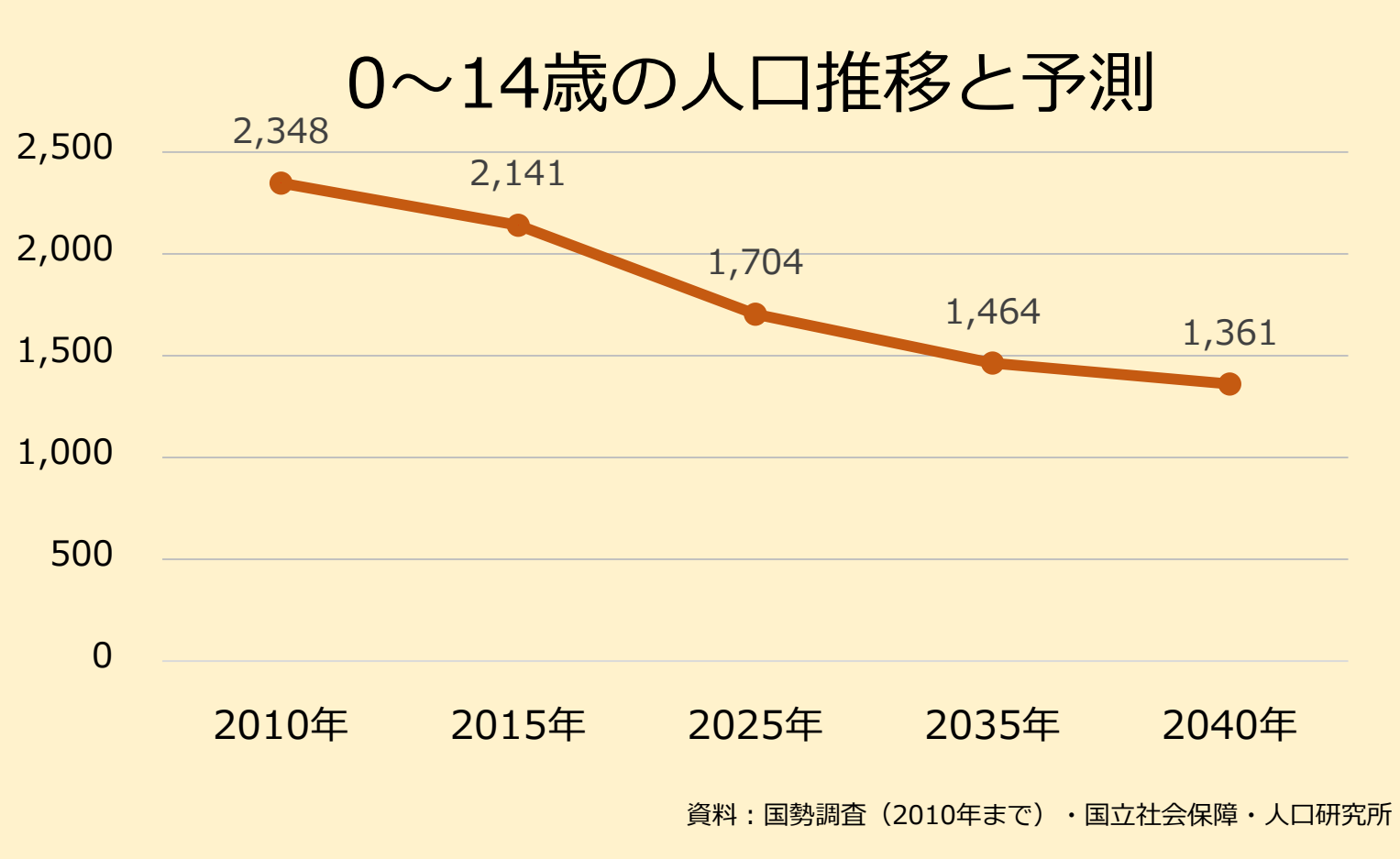
① みたけの地域資源は!?


町の約60%は森林
豊かな四季折々の自然
里山のまち
環境モデル都市みたけ

② 現状と課題

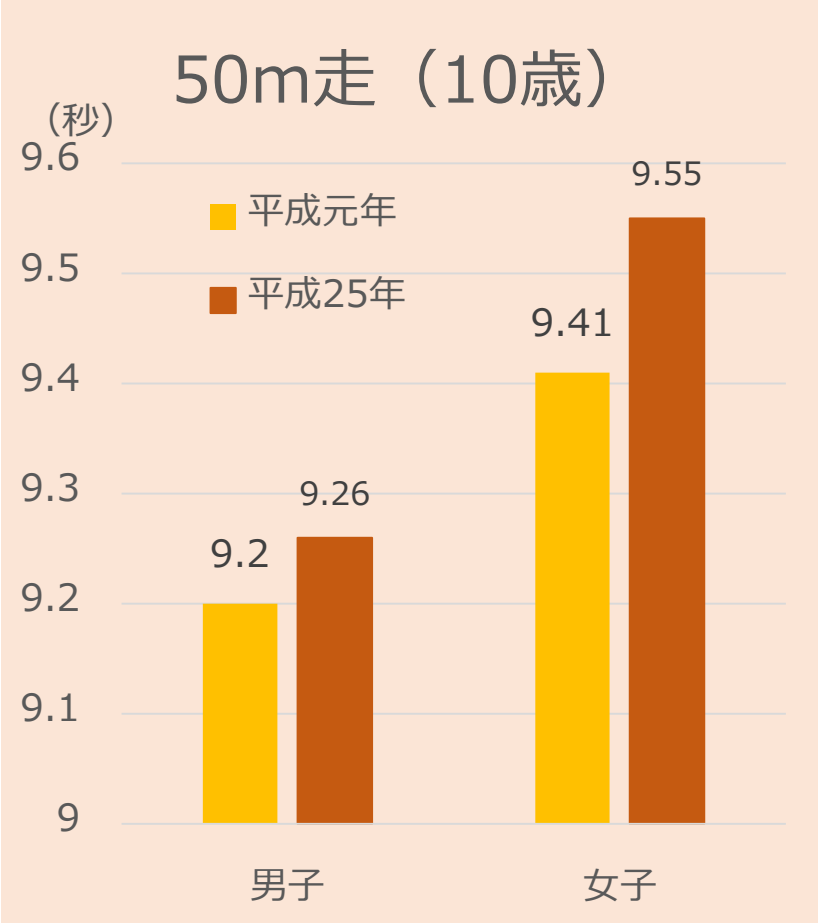
【課題1】子ども数の減少

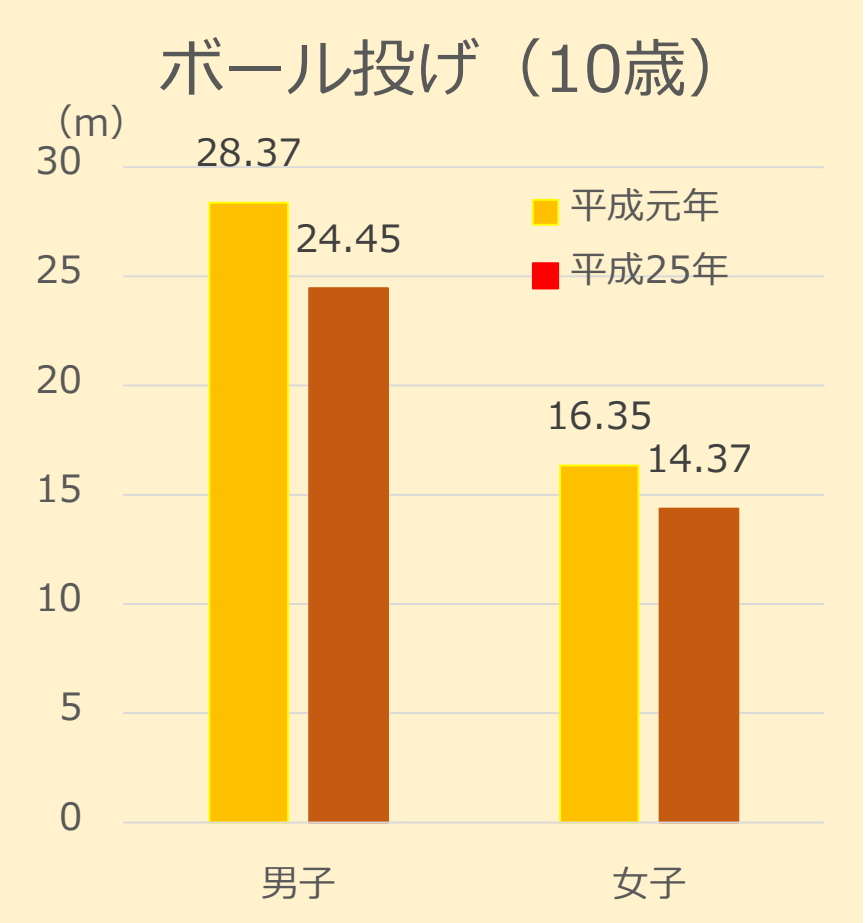
子ども数(年少人口)の減少



【課題2】子どもの体力低下

子どもの体力低下





資料：文部科学省（2013）　三世代間における体力・運動能力の比較・分析（抜粋）

みたけの身近な自然を
生かした教育が
もっとあると良い

【課題3】

**自然を生かした教育を
充実させたい**

子育て世帯と地域住民との
関係が希薄になっている

【課題4】

子育て世帯と地域住民との
関係の希薄化

子ども数の減少

子どもの体力低下

現状と課題

自然を生かした教育の充実

地域住民との関係の希薄化

「森のようちえん」とは?

自然体験活動を基軸とした
幼少期教育の総称

・基本園舎を持たない
・一日中自然の中で過ごす

「森のようちえん」で育つ
子どもたちの姿は…

- 身体が鍛えられる
- 危機回避能力が身に付く
- 感性が磨かれる
- 自主性、創造性が高まる
- 環境に興味を持つ

森のようちえん数の変化

1986年　2013年

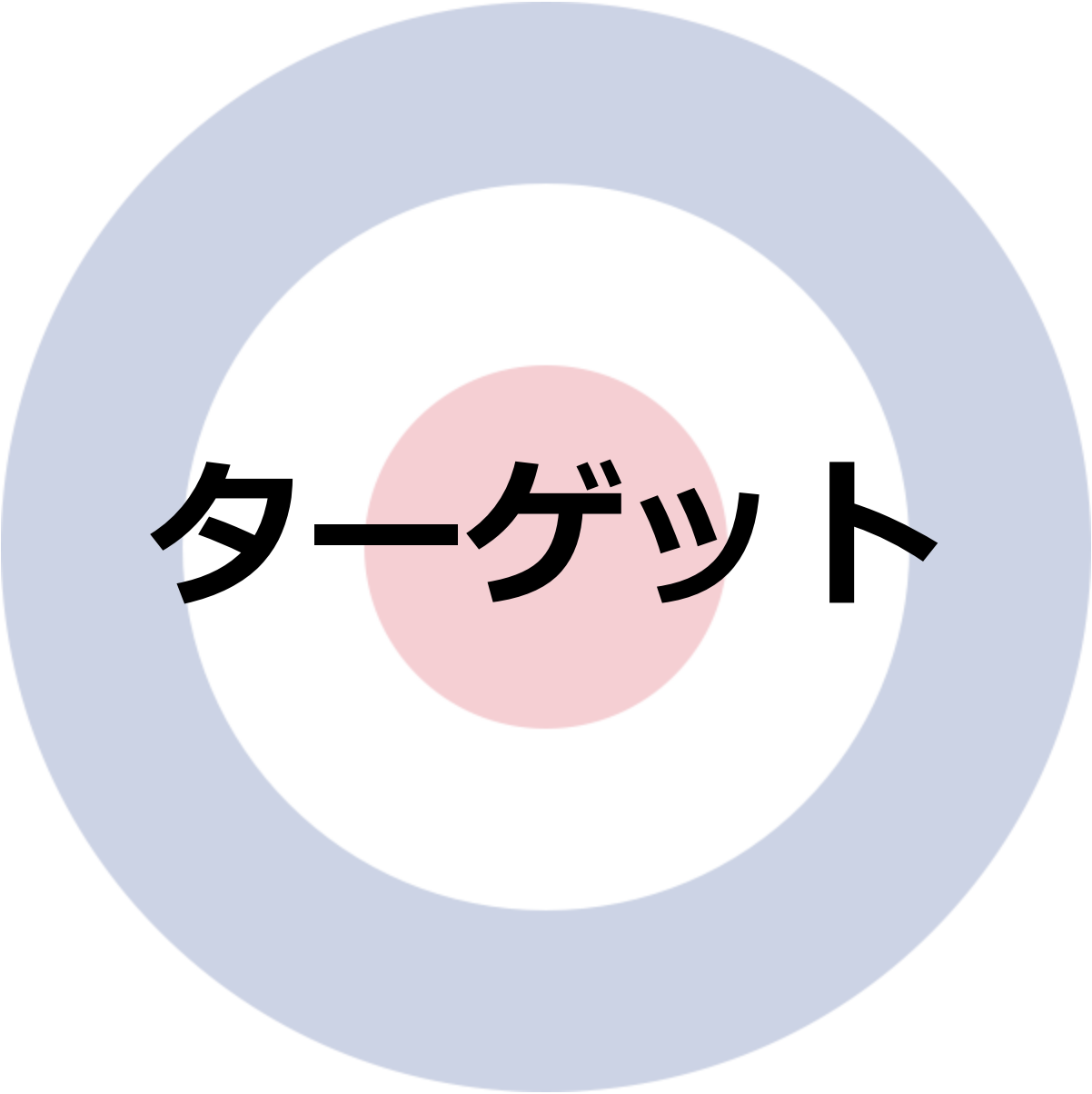
22　→　126

潜在的なニーズは高い

みたけ
もりもと
ほいくえん
夢のようちえん
プロジェクト

みたけ版森のようちえん
＝
みたけもりもりほいくえん

みたけの資源（森林）を有効活用し、自然体験活動をより充実させることで、保育運営の独自性が生まれ、子育て世帯に選ばれるまちになる。


ターゲット

子どもに自然教育を受けさせたい！

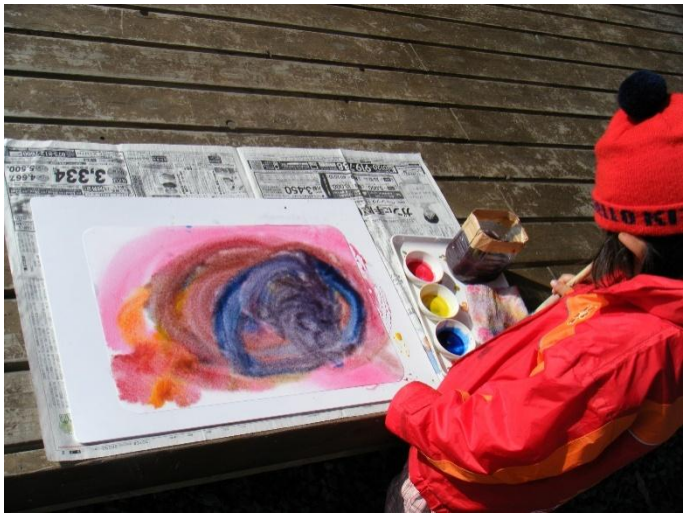
御嵩町内及び全国の子育て世帯

子育て世帯の
転入　増加

③ 目指す姿・ありたい姿

子育て世帯の
転出　防止

③目指す姿・ありたい姿



独創性・体力
生きる力・
自己解決能力の
向上

幼児期からの
環境教育による
次世代の育成

子育て世帯の
転入　増加

独創性・体力
生きる力・
自己解決能力の
向上

目指す姿・ありたい姿

子育て世帯の
転出　防止

幼児期からの
環境教育による
次世代の育成

④ みたけもりもりほいくえん

５年間のロードマップ

④5年間のロードマップ

H27 H28 H29 H30 H31

調査・研究・会議

現地視察、自然保育の研究、有識者との会議

実施する上での方向性の決定

現在の保育内容（行事）の見直し
どこまで自然保育が取り入れことが可能か精査

④5年間のロードマップ

H27 → H28 → H29 → H30 → H31

保育士の教育

自然保育に関する知識を深める
研修・現地視察の実施

専門家によるワークショップ実施

専門家による体験型ワークショップの開催
　対象者：子どもとその親
　保護者にも自然保育の理解を深めてもらう

④5年間のロードマップ

H27 → H28 → H29 → H30 → H31

中保育園でのモデル事業の実施・評価

- 既存行事　10→5
- 自然保育　3→8
- 人工の園庭遊具撤去
- 保護者説明会
- 地域住民の参画（農業体験等）

保護者の評価
保育士の評価
子どもの評価

④5年間のロードマップ

H27 → H28 → H29 → H30 → H31

みたけもりもりほいくえんの建設開始

白山グラウンドに木のぬくもりのある園舎（遊具の無い庭）新しい中保育園の建設スタート

⑤ プロジェクトの成果目標・ＫＰＩ

・子どもと保護者の満足度

　80%以上

・ワークショップの参加者数の増加

　20組（H28）→　50組（H30）

・転入世帯の増加

　10世帯以上増

Ｈ３１ → Ｈ３１以降

・プロジェクトに共感し、
参画する地域住民が増えてくる
・みたけもりもりほいくえんが
広く認知され、子育て世帯の
転入が増える
・自然環境に強い興味を持った
子どもたちが輩出される
・卒園生が子育て世帯として戻ってくる

みたけもりもり
ほいくえん
プロジェクト

小倉 辰信・小栗 宏紀・渡邉 亜美
伊佐治 諒・安藤 裕之・岩津 昌之

集え!!1000人 **魁!!子ども塾**

強み

❤可児市・美濃加茂市などの中核都市に近い

現状と課題

▲共働きしたくてもできない子育て世帯の増加
▲塾・習い事などへの送迎に時間と手間がかかる

魁!!子ども塾

★年間360日（年末年始除く）、放課後から開校する。
→子育て世帯が安心して共働きできる！

★魅力的な学びの実施。
→御嵩町の小学校が子育て世帯に選ばれる！

魁!!子ども塾の学びと運営体系

地域団体
地域体験教室
・偲歴会・町内の企業などを講師に招く
・中山道ウォークなどのイベント参加

学習塾
放課後塾
・東進ゼミナールのような学習塾を指定管理する

大学生（サポート）

ICT講師
ＩＣＴ教室
・Apple社製品・イラストレータなどの

数値目標

- 入校者数50人
- 参加者の満足度70%
- 子育て世帯の転入
  年間５世帯の増加

必要経費などについて

名称	賃金	勤務体系	計
講師	¥2,000	1日3時間×1人×週5日	¥30,000
地域団体	¥5,000	1団体×週2日	¥10,000
大学生	¥2,000	2人×週5日	¥20,000
職員	¥1,000	1日6時間×1人×週5日	¥30,000
職員	¥1,000	1日12時間×1人×週2日	¥24,000

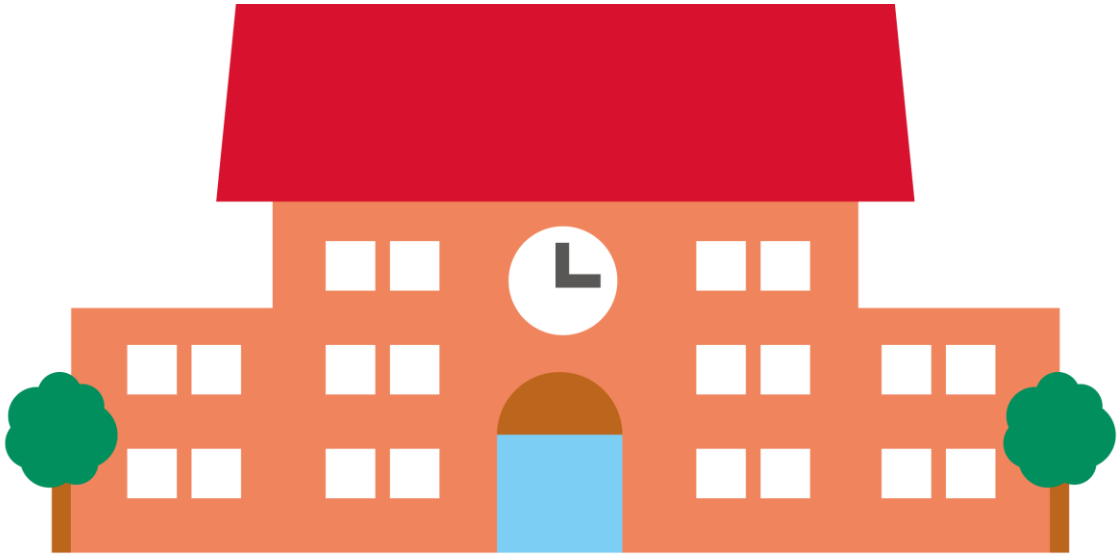
小計（週額） ¥114,000

×50週（年額） ¥5,700,000

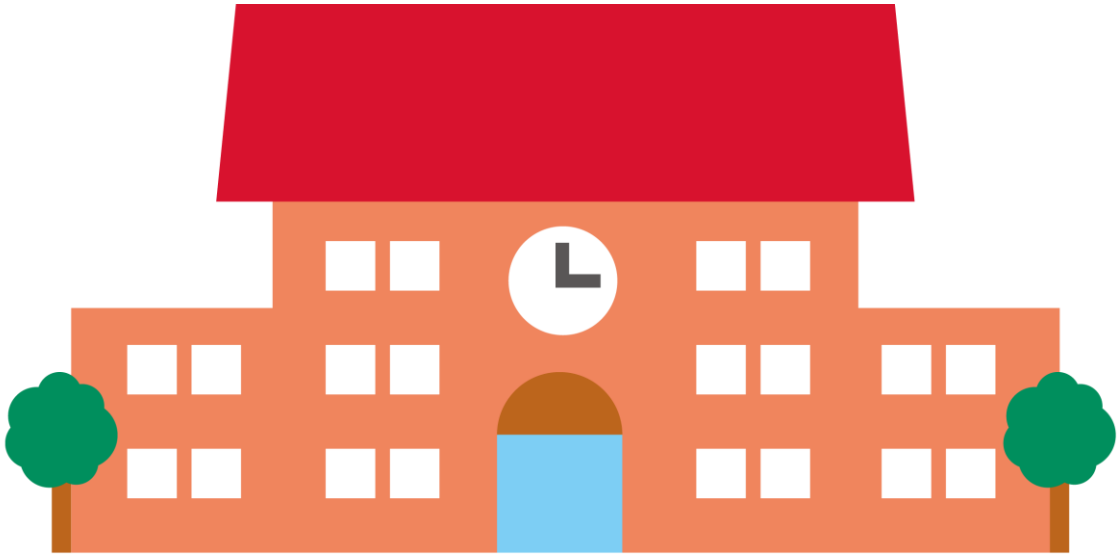
月謝￥10,000×入校者数50名×12ヶ月 ¥6,000,000

集客1000人

魅力塾



伏見小学校の空き教室で開校します



年間360日開校します

＜新たな学び＞

＜地域との交流＞

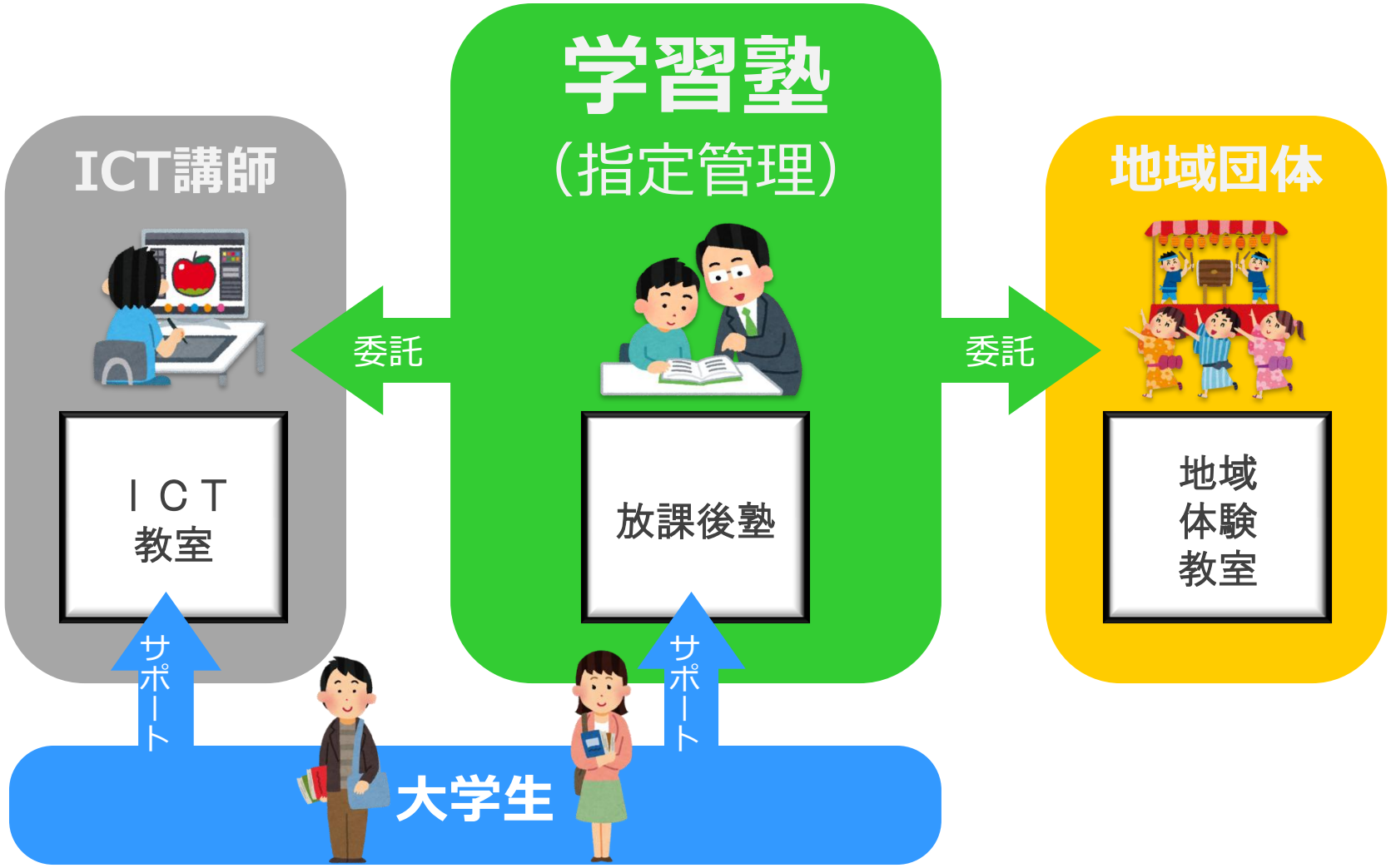
子ども塾で学べる事柄

ICT教室

地域体験教室

放課後塾

運営体制



質問

なぜ360日開校するのか？

魅力子ども塾

子育て世帯が
共働きしやすくなるためです。

課題

共働きの子育て世帯の増加

小学校に通うと共働きが困難

対策

子ども塾

年間360日開校

効果

子育て世帯が共働きできる環境

安定した収入

共働きしやすくなるためです。

質問

なぜ塾なのか？

町外の塾への送迎にかかる
コストを削減できるからです。

課題

町外の塾への送迎

時間とお金がかかる

対策

子ども塾

学校の空き教室で塾を開校

効果

子育て世帯が共働きできる環境

送迎コストの削減

町外の塾への送迎にかかる
コストを削減できるからです。

加えて、

時代に魁けた、魅力的な小学校を
「選んで」くれる子育て世帯の転入
が期待できます！

子ども塾で学べる事柄

ICT教室

地域体験教室

放課後塾

御嵩町の小学校を選んだ子育て世帯の転入

子ども塾を開校することによって…

子育て世帯が安心して
共働きできる！

御嵩町の小学校を
選んでもらえる！

さらに…

- ★ 大学生に御嵩町を体感してもらえる
- ★ 地域の団体が活性化される
- ★ 塾・地域・ICT・大学生間での交流

月謝
約10,000円

一週間のプログラム（例）

月	火	水	木	金	土	日
ICT	塾	ICT	塾	ICT	地域	地域
正規職員	正規職員	正規職員	正規職員	正規職員	正規職員	正規職員
ICT講師	塾講師	ICT講師	塾講師	ICT講師	地域団体	地域団体
大学生	大学生	大学生	大学生	大学生	地域団体	地域団体

ロードマップ（5か年）

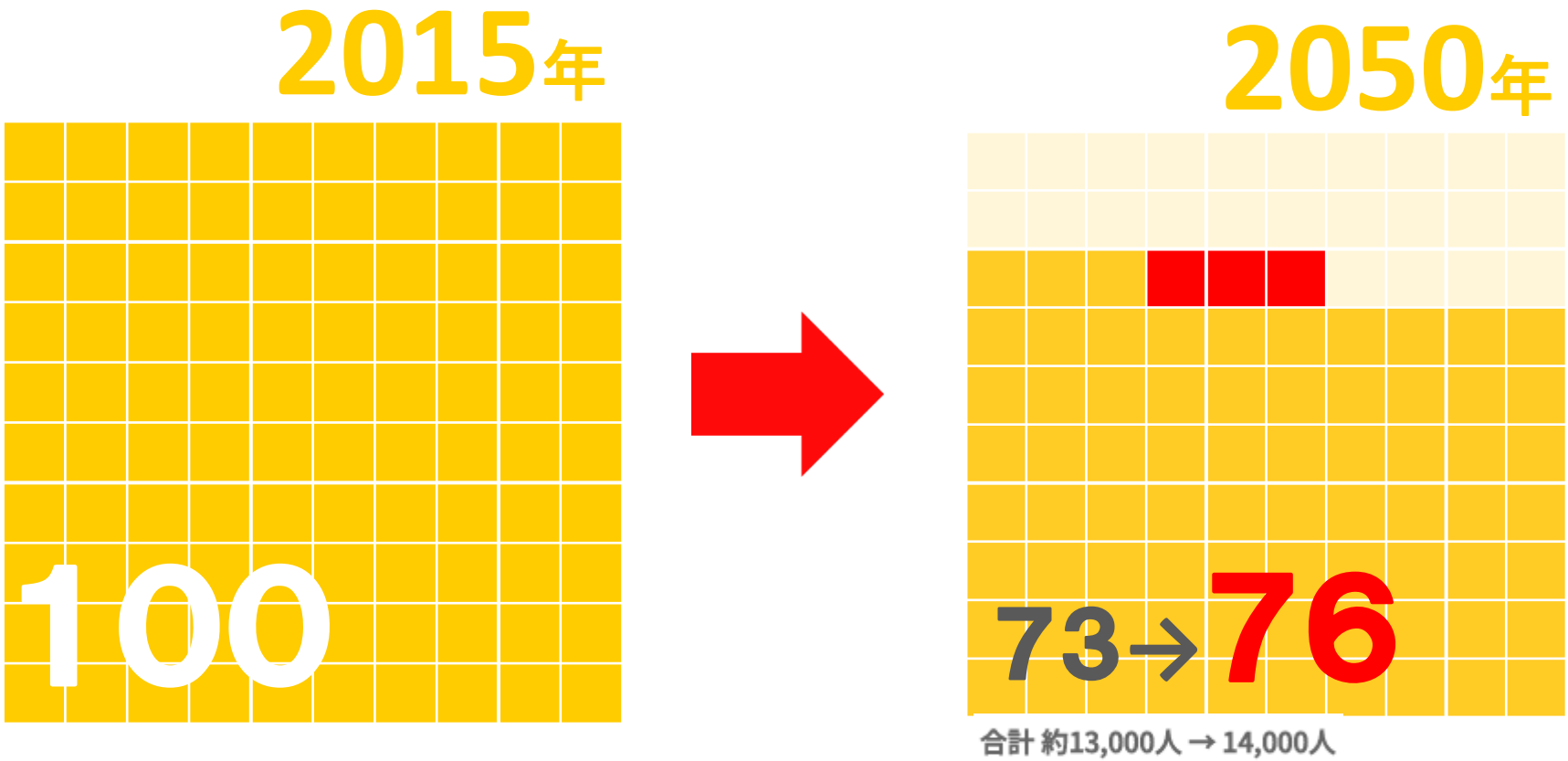
	初年度	2年目	3年目	4年目	最終年
	準備期間	試験実施期間（補助金の活用）		本実施期間（利用料による運営）	
運営方式	直営 （役場による計画立案） 親世代によるワークショップ、検討委員会の実施	一部委託の直営 （講師業務、運営業務は委託若しくは役務費として計上）	完全委託 （管理を含めた基本業務、講師業務は全て委託） 役場は最終年の指定管理に向けた準備	指定管理実施 （全業務の指定管理、指定先は学習塾、スポーツ施設運営会社を想定）	指定管理業務 （全業務の指定管理、業務監査の実施）
活動状況	次年度からの試験実施に向けた、事業者、講師、大学生、空き教室の確保、補助金申請、PR活動等	週3日程度、受入上限を設定した上で試験実施。成果、課題等を検証する。原則無料、若しくは安価な値段設定。	週5日程度、昨年度の課題をクリアしていく。 原則有料とし、需給ニーズ、設定金額を検討する。	360日運営を実施、当初想定していなかったニーズ、問題等を把握しフレキシブルに対応する。	町内在住者のニーズを満足させるプログラムに加え、町外在住者にも一部プログラムを解放しPRを図る。
目標 移住世帯数	―	―	1世帯	3世帯	5世帯
運営費用	80万円 有識者会議（40万円） ワークショップ（20万円） 営業活動等（20万円）	210万円 塾講師（150万円） 大学生講師（60万円）	450万円 塾講師（250万円） 大学生講師（100万円） 他業務費用（100万円）	600万円 塾講師（250万円） 大学生講師（200万円） 他業務費用（150万円）	600万円 塾講師（250万円） 大学生講師（200万円） 他業務費用（150万円）

※５年間は伏見小学校にて実施。
※４年目以降の指定管理業務委託に伴い、役場及び第３者機関による業務監査委員会を発足させる。
半年毎に事業検証を行い、毎年の指定管理内容を修正していくことで、適切な業務継続を担保する。

数値目標

・入校者数	**５０人**
・入校者の満足度	**７０％**
・子育て世帯の年間転入	**＋５世帯**

年間５世帯転入すると…



1,000人の人口増につながります！

©issue+design all rights reserved.

集客1000人

魅力塾

ご清聴ありがとうございました

みたけ育MEN育成プロジェクト

ー立ち上がれ　みたけ男子ー

Cチーム

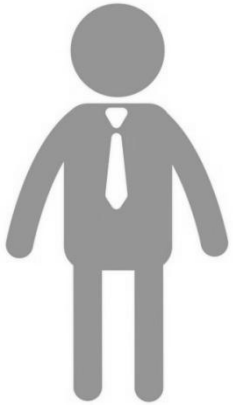
板屋 達彦

伊佐治 文野　今井 健太

掛布 登志恵　土屋 由真

みたけ育MEN　育成プロジェクト

子育て世代のパパ



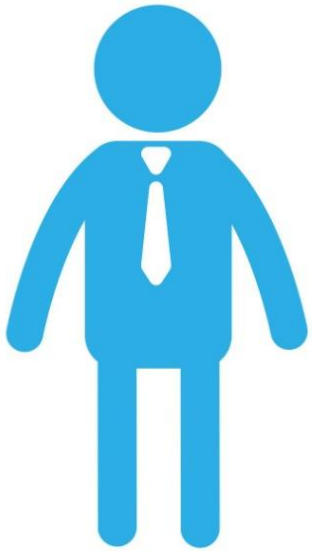
＋

御嵩らしさ

＝

イクメン

新米パパ
育メン希望者



講座受講

料理教室などの受講後すぐ実践的な
講座を受講します。

フィールドワーク

体験型の学習を行い、
地域の魅力を発見してもらいます。

育メン講演会

育児法や父親の役割について、その道の
プロの方から実践的な内容を勉強します。

1年間に6回のプログラム

１．子育て世代の課題

家事・育児・仕事との両立

自由な時間の確保

安心して子育てできる環境

↓

協力者不足

２．子育て世代が望むもの

１位　子育て世帯への経済的援助の拡充
２位　子どもが医療機関を利用できる体制の整備
３位　病児・病後児の保育の充実

７位　父親の子育て参加意識の啓発

（ぽっぽかん子育て世代アンケートより）

3．ありたい姿・目指す姿

父親が積極的に育児に参加する街

みたけ育MEN　育成プロジェクト　～立ち上がれ　みたけ男子～

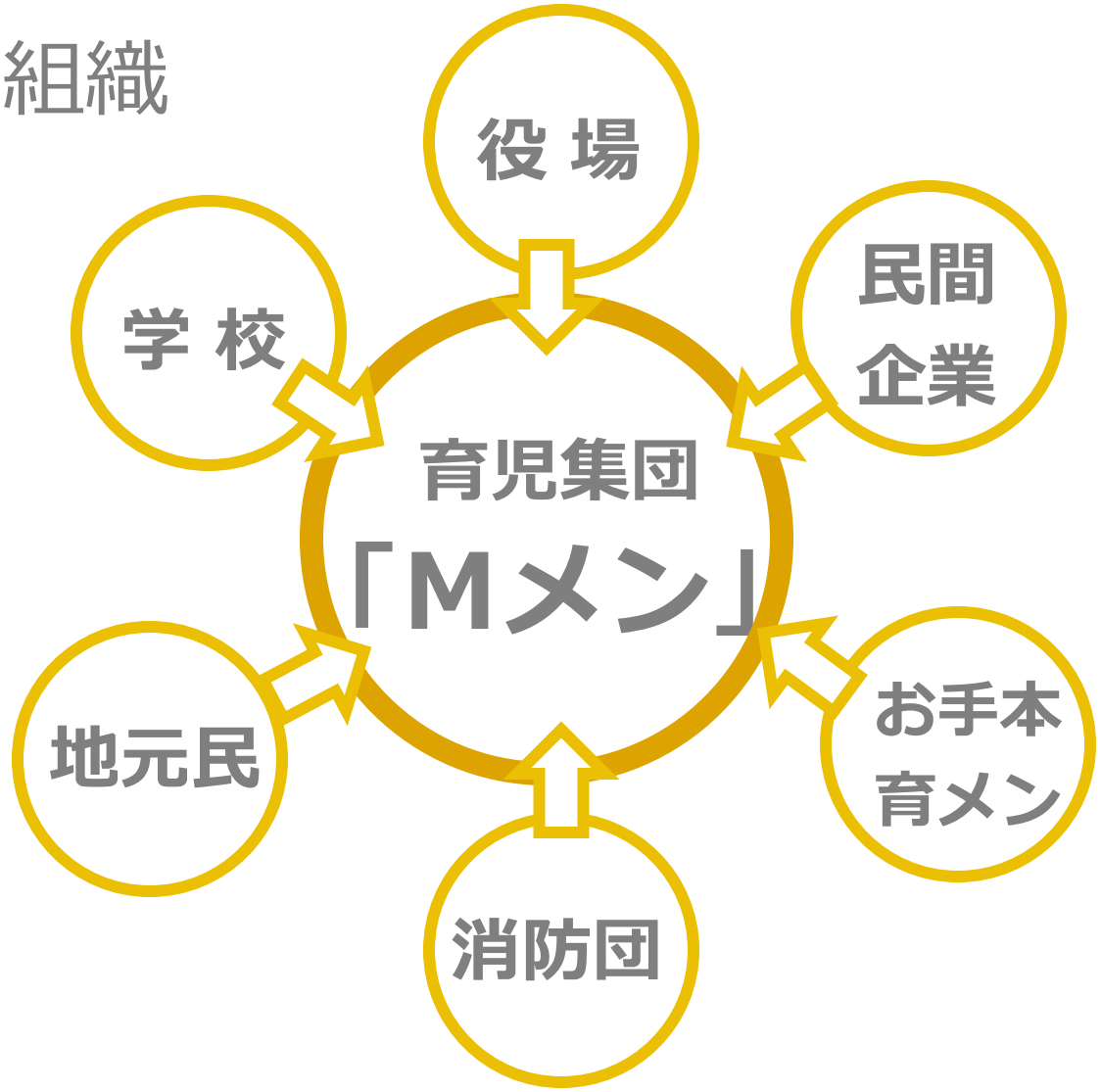
豊富な学習フィールド	地域団体	民間企業
田植え体験 親子自然探検	読み聞かせ体験 親子の料理教室	大人の社会見学 体験学習

パパ達の学びの場づくり

地元愛を育てる

地域とのつながりを創出

4. 運営組織



Mメンがプログラムの担い手となり

新しいMメン組織メンバーを育成！

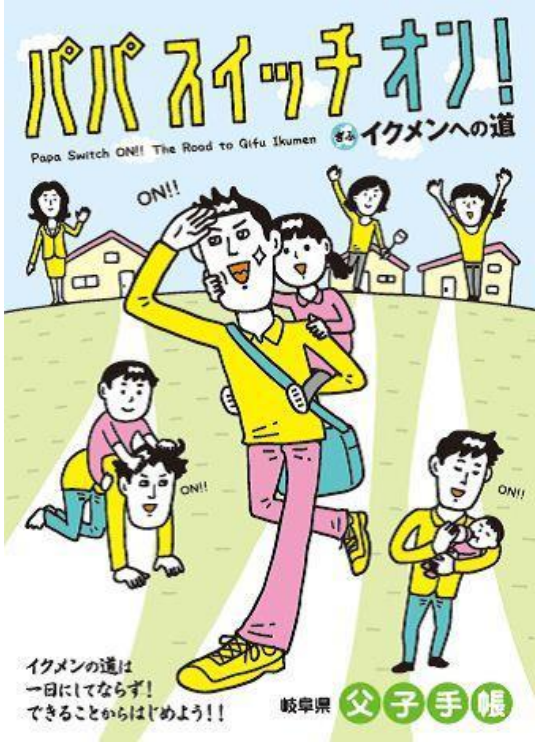
5．ロードマップ

STEP 1
ママさんアンケート
STEP 2
育メン組織の立上げ
PR活動
STEP 3
プログラムによる活動
STEP 4
育メン認定

広報活動①
ＳＮＳの活用

ＰＲ活動②

育メン手帳作成



岐阜県

東京都

6. 数値目標

ママ満足度

20%向上

基準値（平成２７年）－
目標値（平成３１年）２０%向上

育児休暇取得率
（グリーンテクノみたけ）

10%向上

基準値（平成２７年）　0%
目標値（平成３１年）１０%向上

ご静聴ありがとうございました。

みたけ育MEN　育成プロジェクト　～立ち上がれ　みたけ男子～

課題

家事・育児・仕事との両立
時間確保、協力者不足

御嵩の強み

豊富な学習フィールド
地域団体、多様な地元企業

目指す姿

父親が積極的に育児に参加する街
時間・心の余裕　仕事と家事の両立　家族愛・絆

◆ターゲット
２０歳代～３０歳代の育児中または
これから育児を始める男性

◆運営組織　通称：Mメン
地元民・民間企業・学校関係者
お手本パパ・消防団・役場などから参加

プログラムの企画・運営　取り組みの紹介

「育メン育成プログラム」（全６回）
親子農業体験　お父さんの読み聞かせ
料理教室　職場見学

育メンに関する啓発活動
育メン手帳の作成
育児休暇制度の啓発・普及
SNSを利用した広報活動

パパ達の学びの場　**地元愛**　**地域とのつながり**

父親の子育て参加だけでなく
地域ぐるみでの子育て意識の芽生え

◆プログラム運営に関する御嵩町重点課題
H27～H28　運営組織各種調整、政策決定
H29～H30　運営組織サポート、育児休暇制度の広報
H31～　参加者管理、継続的運営のためのサポート

内容/時期	H27	H28	H29	H30	H31
調査	ママさんアンケート				フィードバック
運営組織	Mメン募集				
		参加基準等策定	会議	会議	会議
プログラム	参加者募集	プログラム開始			……
広報活動		募集広報	活動内容報告・育児に関する啓発活動		

ＫＰＩ（具体的な成果目標）

平成27年度比（実施初年度調査時）
◇育児ママの満足度調査
（家事達成度）
→平成31年度20%の向上

◇町内企業育休取得率
平成27年度0%
→ 平成31年度10%の向上

平成27年度概算要望

合計240万円

◇育メン先生講師料・・・・・・50万円
◇育メン組織運営費・・・・・・10万円
◇育成プログラム学習費・・・・30万円
◇卒業記念研修費・・・・・・・90万円
◇需用費（アンケート、パンフ等）　60万円